

平成 20 年 11 月 1 日発行
第 134 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel: (0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax: (0548)32-1280

「モンスターは何処から来たのか」

モンスター性を見詰め、知って考え抜いて、^{こび}媚・^{へつら}諂うな

最近、日本のいたるところにモンスター [=Monster] (妖怪)が跋扈している。特に Monster Parents (親)・Monster Patients (患者)と言われる、教育・医療の現場での“MP”存在は著しい。ここ数年、身近な医療現場でも、治療費の不払いは序の口で、患者が医師や看護師を殴ったり、言葉の暴力が横行したり、刃物を振り回すに至るケースも存在する。

教育と医療、学校と医療機関には、共通点がある。これは、教える立場と学ぶ立場、医療を供給する立場と受ける立場、以前そこには専門性を背景とした「権威の勾配」という前提が在った。当然の事として「上下関係」が存在した。しかし、現代社会においては、「友達のような教師」がもてはやされ、親の「パターンリズム」と表現される保護的な姿勢が否定的で、父親の権威までもが軽視されてきた。

以前存在した「権威の勾配」は、ここ数十年 非民主的という名の下に極力否定される方向で進んできた。私はこれ自体を否定するつもりはない。個人的には「生の言葉・求める声」は大切であり、むしろ「しっかり物を言う患者さん」の増大を歓迎している。患者さんの疑問に、真っ向から・簡便に解り易く・正確に、事を伝えるように努力している。では 何が問題か? 「専門性としての権威」をないがしろにし、自分が医療の施しを受ける立場であること、その感謝と敬意の気持を捨て去って権利意識のみが旺盛に増殖した社会。これが問題で、まさしく、モンスターを登場させたバックグラウンドがそこにあると思う。

人間には、色々なモンスター性が存在する。だから、大変であるし、面白い。自分がそのモンスターの餌食になった時/逆に自分がモンスターとして振る舞うことが可能な設定となった状況でどう振る舞うのか? 色々と考えさせられる。そして、どちらの立場でも、相手と自分の立場を、冷静に外から見て“ウフ”と思えるまで、考え抜いて行動すること。この大切さを感じ知る。この思考過程により、自分の弱さ、育てていなくてはならない自己の内面が見えてくる。

結論から言うと、やはり男であるから、強く在りたい。そして、特に人として弱者に対して、自分を求めてくる人間に対して優しく在りたい。

何より大切なことは、相手がモンスターであっても、自分の中にモンスター性がみえても、まずは「相手を認めること」そして「自分を媚・諂うことを一切無くすること」さらに「冷静に対話すること」以上自分が自分に課しているモンスター対策である。

行き過ぎた訴訟社会の負の部分、権利意識旺盛で弱肉強食の格差社会が行き着くところに、^{こび}媚・^{へつら}諂う姿勢が見えると、このモンスターの類は益々思い上がる。疲弊から崩壊していく社会の過程は、そんな個々の人間の行動に原因がある。傍観し流されているのではなく、現実起こっている問題として、自分の日常生活の中の一つひとつの姿勢を、今 考えたい。

医療人に対し、住民が敬意と尊敬の念を失い、医療人が^{こび}媚・^{へつら}諂うようになったら、それは互いが自分で自分の首を絞めていることに他ならない。 加藤寿夫

糖尿病患者さんの会「第 77 回睦会」勉強会の報告



平成 20 年 10 月 18 日(土)、吉田町健康福祉センター「はあとふる」にて糖尿病患者の会「睦会」勉強会を開催しました。本会は、春と秋の年 2 回開催され今回 77 回目を迎え、昭和 45 年 加藤内科医院開設 2 年目の第 1 回開催より御尽力いただいている睦会会長 杉山富三男氏による開会の挨拶から始まり、会員ら 73 人が学びました。

院長 加藤寿夫からは、糖尿病合併症のリスク解除のための対策として「Challenge-DM study」の内容を紹介し「糖尿病の治療は血糖だけでなく、血圧・脂質のコントロールにも目を向けること」の大切さについてお話ししました。

会員の羽生高氏からは、自らの病歴を紹介され、インスリンの機内への持ち込みから 時差の中での SMBG(自己血糖測定)、注射の実際まで、そして「糖尿病でも普通に海外旅行が出来ます」と、自ら撮影されたオーロラの写真の紹介から、体験談を話していただきました。

そして休憩時間を利用して「自分の血糖値の予測を申告



した上で SMBG の機器による血糖測定」を行い、実測値と比較していただきました。この方式は恒例となり、大変好評のようです。

第 2 部では、(株)はいやく 薬剤師 杉森勲氏より、インスリンのデバイスと針について、最近の進歩とこれらの実際の説明から、使い捨てのキット(ディスプレイ)タイプとカートリッジ形式によるカートタイプの注射器の説明、「ポイントはピストン棒にある」こと、さらに負担額の違い等のお話をいただきました。



第 77 回 睦会プログラム

「開会の言葉」睦会会長 杉山富三男さん

第一部 13:00 ~ 13:50 司会 杉山晴子

「糖尿病合併症の対策 リスク解除のために 15分」

「町の健康福祉について その2 5分」 院長 加藤寿夫

「インスリン療法と海外旅行 オーロラを追いながら 30分」睦会会員 羽生高さん

休憩 (血糖測定) 15分

第二部 14:05 ~ 15:30 司会 圓尾由美子

「インスリンのデバイスと針について 10分」

(株)はいやく 吉田薬局薬局長 杉森勲さん

「糖尿病患者さんの足のケアについて 60分」

焼津市立病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 八木さとみさん

「総括」静岡県糖尿病協会副会長 池田あずさん

「閉会の言葉」睦会代表 桜井平八さん



そして、今回のメインゲスト、焼津市立総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師の八木さとみ氏による「フットケア」のお話を、写真・クイズを含めまとめていただき、足のケアは糖尿病の患者さんに限らず大切であること、糖尿病の患者さんの足壊疽や足切断は予防と早期発見で回避できること、足のトラブルとその対処方法、正しい靴の選び方まで具体的な説明がありました。最後には「壊疽予防 10 か条」として、足のケアに対する意識の喚起を促していただきました。



Let 's フットケア

足全体をよく観察。見えないところは鏡で見る。

足の洗い方

毎日石鹸で足の裏や趾間を洗い、清潔を保つ。

(柔らかいスポンジやタオルを使用しましょう。)

よくすすぎ、柔らかいタオルで水分をよく拭く。

乾燥が強かったり、亀裂があれば保湿クリームを塗る。

入浴やシャワーができない日は、足浴をおこなう。

えそ予防 10 か条

- ・糖尿病と足病変について正しい知識をもつ。
- ・毎日足（特に趾先、趾間、足底）を観察し、異常があったら受診する。
- ・毎日足を洗い清潔に保つ。
- ・足の皮膚の状態を良好に保つ。（過度の乾燥や湿潤は良くない）
- ・足に合った、目的に応じた靴を履く。
- ・白癬・ウオノメ・タコなどは正しく治療する。
- ・深爪はしない。
- ・屋外を裸足で歩かない。特に炎熱の浜辺やプール。
- ・きっぱり禁煙。
- ・湯たんぽ、アンカは禁止。



総括として、静岡県糖尿病協会副会長 池田あずさ氏より、10/12(日)富士山静岡空港(高尾山石雲院)で開催されたウォークラリーの報告、来年 11/1(日)静岡市で開催の日本糖尿病財団開催の「糖尿病予防キャンペーン」についてのお話。「皆が知ることからスタートが切れるように協会として啓蒙に力を尽くしたい」とのお話。



そして、陸会代表 桜井平八氏の閉会の言葉で終了となりました。



今年は当院も開院から 40 周年目を迎えており、今後の陸会も患者さんの現場の生活を見直す、年 2 回の大切な機会となるようにと考え企画していきます。

次回「第 78 回陸会」は、2009 年 4 月 18 日開催予定です。

詳細は、本院ホームページ (<http://www.katoiin.jp>) を参照して下さい。

《勉強会のご案内》

通常の勉強会は原則第 3 土曜日 13:00 から開催です。

11 月 15 日(土)	運動療法について
12 月 13 日(土)	インソール療法について
1 月 17 日(土)	糖尿病とは
2 月 14 日(土)	薬物療法について
3 月 7 日(土)	低血糖について
4 月 18 日(土)	第 78 回 睦会

ビデオ・DVD 学習会は、別紙予定表にて診療日の午前・午後開催しております。個人の希望にも随時応じております。希望される方は、職員まで申し付け下さい。

《開院 40 周年事業のお知らせ》

40 周年記念文集の作成

睦会会員の新規募集・会員証の発行

記念行事の開催

《診療案内》

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時 ~ 12 時						
15 時 ~ 18 時						

休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。

今月より 受付最終時間 厳守となります。

現在の、睦会の会員・役員の方々のお力で、左記 3 つを成し遂げたいと考えております。個々にお話しますが、宜しくお願いします。

《本院の「新型インフルエンザ対策」のお知らせ》

現在の鳥インフルエンザが人に、さらに人から人へ感染するようになった際の「新型インフルエンザ」について、(株)はいやく 吉田薬局とも協議の上、現在通院中の皆さんに感染が及ばないように検討中です。

具体的な対策は次号康寿診報 135 号にてお知らせします。

《インフルエンザワクチン 予防接種のお知らせ》

今年度もインフルエンザ ワクチンの予防接種実施中です。

小学生まで(12 歳以下)の子供さんは 原則 2 回接種です。

2 回接種の費用 ¥4,000 (¥2,500 + ¥1,500) 1 回目にまとめて徴収します。

大人の方(中学生以上)は、

一般の方 ¥3,000、通院中・紹介の(加齢のある)方 ¥2,500、2 回目の接種 ¥2,000

65 歳以上の方は、町・市の補助があり、各町・市の手続きの上、接種していただくと助成の対象となります。



「受験生割引」今年度も実施します。

「受験生であること」を告げて下さい。1 回目 ¥2,300

2 回目の接種 ¥1,800 とさせていただきます。



《肺炎球菌ワクチン予防接種のお知らせ》

今年度も、吉田町では独自の助成があり 70 歳の方は 個人負担無しにて行なわれています。他の市・町の一般の方は ¥8,000、睦会の会員の方は ¥6,000 にて実施します。



《臨時休診のお知らせ》 お薬を切らさないようにお気をつけ下さい。

12/ 22(月), 年末年始 12/ 29(月) ~ 1/ 4(日)は 休診となります。

臨時休診は数ヶ月前にお知らせします。確認の上で 受診をお願いします。